

子どもへの意見聴取について

1 目的

推進計画に盛り込むべき理念及び取り組み等を検討していくにあたり、これまでの子どもへの意見聴取で聴けていない子どもに対して意見を聴取し、参考とする。

2 実施時期

令和4年7月上旬～8月上旬

3 対象(案)

- 児童養護施設に入所している子ども
- 里親家庭で暮らす子ども
 - ・里親会
- 不登校の子ども
 - ・フリースクール
 - ・フリースペース
 - ・通信制高校
- 外国籍の子ども
 - ・支援団体
- LGBTQ の子ども
 - ・支援団体
- ヤングケアラー
- 乳幼児
 - ・区内保育園・幼稚園
- 障害のある子ども
 - ・放課後デイ
- 難病の子ども
- ハイティーン会議の子ども

4 意見聴取する内容と方法

(1) ワークショップ

前半: アイスブレイク・条例を知るワークショップ(30分～45分)

後半: 日頃の思い・困りごと等を話し合うワークショップ(30分～45分)

- ・支援団体に、意見聴取の対象となる子どもの選出、意見聴取のサポート等の協力を依頼。
- ・日常の活動の場へ委員が出向くアウトリーチ型

(2) ヒアリング

委員より、権利条例パンフレットの紹介・条例に規定されている権利についての説明したのち、日頃の思い・困りごと等についてヒアリング。

(3) アンケート

対面で話すことを希望しない子どもを対象に、日頃の思い・困りごと等について自由記述形式のアンケートを実施。

(例)

困っていること・疲れること・つらいこと等があるか？

中野区は子どもにやさしいまちだと思うか？その理由

5 配慮すべき点

○子どもにとって参加することが楽しいと思えるような配慮をする。

例: リラックスでき居心地がいいと感じる場所で行う

休憩を多くとる

エナジャイザー(体操やストレッチなどの気分転換)

軽食やスナック、ジュース等の提供

UNICEF(2017), *Child Friendly Cities and Communities Initiative – Toolkit for National Committees*, Chapter 5.7

○「意見を聞く際、大人に配慮してほしいこと」として子どもからあがった意見

- ・友達みたいに接してくれる。気楽に聞いてほしい。(小学生)
- ・話すことが得意じゃないから、途切れ途切れに話すことが多いので、遮らずに聞いてほしい。(中学生)
- ・話を聞いているときに足と腕を組まないでほしい。怖い。(中学生)

- ・優しく話を聞く。否定しない。(中学生)
- ・伝えたことを否定せずに一旦受け止めてほしい。(高校生)
- ・否定から入らないでほしい。

○子どもの年齢に応じた発達段階ごとにそれぞれ異なる特性があること、病気や障害、日本語以外が母語である場合や外国にルーツのある子どもなど、自分の思いや意見を言葉や態度で表出することに困難がある子どもたちに対して、それぞれの状況に応じた配慮を行う

○話したくないときは話さないでよいこと

○意見聴取後、子どもたちの意見をどのように活かしたか、フィードバックすること

(名古屋市子ども青少年局「子どもの社会参画のよりどころとなる指針」(令和4年5月23日))